

第2学年1組 道徳学習指導案

篠栗町立篠栗小学校

1 主題名及び資料名

あたたかいこころ 思いやり・親切 2－(2)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」
資料名「ぐみの木と小鳥」(文溪堂)

2 主題設定の理由

内容項目の解釈	児童の実態
<p>「親切」とは、温かい心によって、見返りを期待せずに援助の手を差し伸べる行為のことである。これは、困っている人や弱い立場にある人を見たとき、相手の心の中を押し量って考え、相手の立場や心の痛みを自分のことのように受け止めて、いたり、行動しようとする「温かい心」によって為されるものである。人は、他人の苦痛や不幸を見るに忍びない憐みのこころを有している。これは、「ほめられたい」「大変そうだからやめておこう」というような功利的な打算や何らかの交換条件や代償を得ようとするものではない。「相手のこと」「相手の立場」「相手の役に立てないか」を考えた行為ができると、本当の意味での親切な行為が可能となる。</p> <p>低学年2－(2)に関しては、これまでに友だちにやさしくすることの大切さを学習した。これを受けて、本主題では、「身近にいる困っている人や弱い立場にある人に温かい心で接し、親切にすること」の大切さを感じとらせたい。これは、中学年における「相手のことを思いやり、進んで親切にすること」、高学年における「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」の学習へと発展する。</p>	<p>本学級の児童は、片づけが苦手な子に対して手伝うなど友達が困っていたら、声をかけたり、助けたりしようとする場面が増えてきた。また、高学年から手伝ってもらったり、優しく声をかけてもらったりする経験をしてきている。しかし、まだ自己中心性が残り、自分の都合を優先して見て見ぬふりをしたり、ほめられるために行動したり、自分のこととは関係のないことに関心をもたなかったりする姿も見られる。</p> <p>これは、自分にとって不利益なことがあっても、思いやりをもって人に接することは、相手だけでなく、自分の喜びにつながることに気づいてないためだと考える。また、自分の弱い心に負けることなく、誰に対しても親切にすることとは、素晴らしい行為であり、それを行う資質を誰しもが持っていることに気づかず生活しているためであると考えられる。</p> <p>そこで、人のために何かしたいという意識を持ち始め、相手の身になって考えることができるようになってきたこの期に、本主題を設定する。そして、身近にいる幼いや高齢者、弱い立場にある人にも目を向け、相手も立場に立って進んで親切にしようとする心情を育て、相手が心から喜ぶ接し方を生活の中に広げていくことができるようにしたい。</p> <p>これらの学習は、人と人のかかわりの中で互いに支え合い、共によりよく生きようとする子どもを育てる上からも意義深い。</p>

資料の含みもつ道徳的価値
<p>本資料は、いつも実を食べに来るりすが来ないので、ぐみの木は心配している。そこへ来た小鳥が、ぐみの木に相談されてぐみの実を、届けると、りすは病気で寝ていた。翌日は嵐になり、迷ってしまう。しかし、考えた小鳥はぐみの実をくわえてりすとへ飛び立って行くという内容である。</p> <p>進んで親切な行為をした小鳥の気持ちに共感させることにより、親切が相手の身になって行われることが大切であるということを感じ、道徳的価値に迫ることができる。と考える。</p>

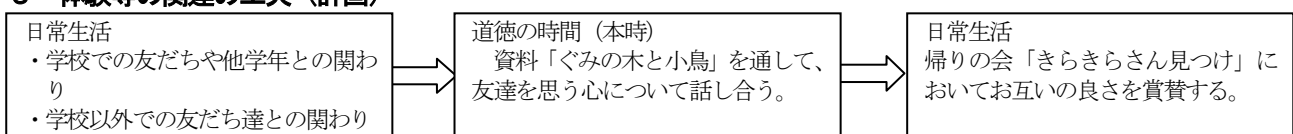
3 本時の目標

<p>(1) 相手の置かれている状況を思いやることができれば、「なんとかしてあげたい」と思う心が膨らむことがわかり、困っている人や弱い立場の人を思いやり、温かい心で接し、進んで親切にしようとする態度を育てる。</p> <p>(2) 事前アンケートをもとに生活経験からめあてを設定し、資料中の主人公の気持ちや考えを吹きだしへの表現や役割演技などの交流により推しはかり、これまでの自分の生活経験における自分のよさを振り返ることにより、思いやりの価値を感じることができるようにする。</p>
--



4 本時学習の工夫点

「見つめる」段階における工夫	「推しはかる」段階における工夫	「見つめ直す」段階における工夫
<p>「思いやりの心」について方向付けをするために、事前アンケート結果を提示し、生活場面において、「人に親切にしたこと」「人に親切にできなかったこと」についての体験を振り返らせる。そして、どちらの自分でありたいかという問いをもとに、「ともだちにしんせつにするこころを大きくしよう」という本時のめあてをもつことができるようにしたい。</p>	<p>読み物資料「ぐみの木とことり」を共感的に活用する。まず、ぐみの木からりすの話を聞き、嵐の中、ぐみの実を届けるか考え込んでいる小鳥の気持ちについて話し合う。次に、嵐の中、ぐみの実をくわえてとび立った小鳥の動作化を通して、小鳥の気持ちを共感的に考え、発表させることにより、道徳的価値を見出す。</p>	<p>小鳥のように、「友だちに親切にしたりやさしくしたりしたこと」を振り返らせ、写真を視聴し、自分の生活を振り返ることにより、自分自身の中にある親切な心について見つめ直させ、価値の主體的自覚を図る。さらに、教師自身の親切にする心の大切さについての説話を聞くことにより、実践への意欲化を図る。</p>

5 体験等の関連の工夫(計画)



6 本時の展開

段階	学習活動と内容	教師の支援
見 つ め る	<p>1 事前アンケートの結果をもとにこれまでの体験を想起し、学習のめあてについて話し合う。</p> <p><人にしんせつにした時></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><友だちにしんせつにした> 片づけを手伝った。</p> <p>↓</p> <p>友だちがよるこんだ</p> <p>↓</p> <p>よるこんでくれてよかった</p> </div> <div style="width: 10%; text-align: center;"> <p>⇔</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p><できなかった> 片づけを手伝わないで遊びに行った。</p> <p>↓</p> <p>遊びたかった</p> <p>↓</p> <p>手伝えばよかったかな</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>【めあて】友だちにしんせつにするところを大きくしよう</p> </div>	<p>○ これまでの生活における体験を想起させるために、事前アンケートを提示し、「友だちに親切にできたこと」と「親切にできなかったこと」について体験を振り返らせる。</p>
推 し は か る	<p>2 資料「ぐみの木と小鳥」をもとに小鳥の気持ちについて話し合う。</p> <p>(1) 資料の状況について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐみの木がりすのことを心配している ・小鳥がりすの様子を見に行き、ぐみのみを届ける ・嵐の中 小鳥がりすにぐみのみを届ける <p>(2) 嵐の様子をじっと考えている小鳥の気持ちについて話し合う。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>・りすさん ・おなかやすいでいるだろうな。 ・さびしいだろうな。 ・病気 大丈夫かな？</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 0 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>・こわいな。 ・あしたでいいかな。 ・あぶないな。</p> </div> </div> <p>(3) 嵐の中、ぐみの実をくわえてとび立った小鳥の気持ちを話し合う。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="text-align: center; margin-right: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>・嵐の中は大変だ。 ・今行かなければいけない。 ・りすさんはおなかやすいでいる。まっている。 ・さびしがっている。 ・嵐をこわがっている。 ・病気がよくなっていない。</p> </div> </div>	<p>○ 登場人物の関係や場面の状況を把握することができるように、挿絵を使って板書を整理する。</p> <p>○ 嵐の中、りすにぐみのみを届けるかまよっている小鳥の気持ちをつぶやかせ、小鳥の気持ちを推し量らせる。</p> <p>○ 嵐の中、りすのもとへ行く小鳥の気持ちに気づかせるために、小鳥を動作化させる。</p> <p>○ 小鳥の心情に迫らせるために、雨や嵐の効果音を準備し動作化をさせる。</p> <p>○ 交流させる中で、思考を深め、価値に迫るために以下の観点から深める問いを行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○ 温かい心 ・嵐の中、大変だけどやめようと思わなかったの？ ・嵐が止んでから、行ったらいいのでは？ ・一日くらいいかになくてもいいんじゃない。 ・なぜ、嵐の中 届けるの？</p> </div> <p>○ 自分のために飛び続ける小鳥を見るりすの気持ちを推し量らせる。</p> <p>○ 自分の中にある親切な心を実感させるため、これまでの生活を振り返らせる。</p> <p>○ 実践の意欲化を図るために、友達へ親切にする大切さについて説話をする。</p>
見 つ め 直 す	<p>3 自分たちの生活を振り返り、友だちに親切にできたことについて話し合う。</p> <p>(1) 自分の生活を振り返り、小鳥と同じような心を自分自身の内面に見出す。</p> <p>(2) 教師の説話により、実践への意欲化を図る。</p>	